

"世界対がんデー"プロジェクト



吉野孝之。

国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科長 池田 公史。 四国がんセンター 消化器内科長 仁科 智裕_氏

湯田淳一朗。











伊藤 雅昭

沖 英次。

村上 利枝 日本癌治療学会 認定がん医療ネットワーク

山口恵子。

世界をリードする医師たちが最前線のがん治療について解説。 正確な情報、安心して治療を受ける 無料

様々な取り組みも



武内 絵美

[**土**] 13:30~



▶テレビ朝日LIVEシンポジウムHP

▶ABEMA NEWS会見チャンネル

▶ YouTube 「ANNニュースチャンネル」





見逃し配信も!



▲ BS朝日 2025年2.8[土] 15:00-15:54 BS朝日で特別番組を放送予定!

登壇者メッセージ



国立がん研究センター東病院 副院長/医薬品開発推進部門長 日本癌治療学会理事長 吉野 孝之。

PROFILE がん治療で世界をリードする。2022年6月、がん治療を最も進化させた医 師として世界のトップ4に選ばれる(ASCOプレナリーセッション)。日本人初。 遺伝子治療、予防・再発診断、製薬開発など、世界で一番早く患者さんに有望な薬を 届けるための新規治療の開発に取り組む。また、正しい情報を届けるための啓発活動 にも力を入れる。2007年より、国立がん研究センター東病院にて現職の消化管内科 へ。大腸がんが専門。国内外のガイドライン委員長やがんプレシジョンメディシン実 現に向けた最先端の挑戦、SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN等の代表を務める。 防衛医科大学校卒業。

がん患者さんをとびっきりの笑顔にする、これが私のモットーです。 この国に生まれたがん患者さんがこの国に生まれて良かったと思える未来を創る ため、誰よりも泥水すすって率先垂範しています。できないとは絶対言わない、 考えて、考えて、できるようにすれば良い、だからあきらめないで、一緒に頑張 りましょう。



四国がんセンター 消化器内科長 がんゲノム医療センター部長 仁科 智裕。

PROFILE 四国がんセンターにて、がんゲノム医療部長および院長補佐(がん化学療法 担当) を務める。専門は消化器がん。胃がんの新規薬剤治療の開発にも注力してい る。患者さんに正確な医療情報を届けるとともに、医師もその責任を果たすための胃 癌治療ガイドラインの作成委員を務める。がん薬物療法専門医でもある。岡山大学医 学部卒。

転移や再発など切除が難しいがんにおいても、近年は治療の選択肢が広がり、長 期生存を目指せる時代になってきました。

私たちは常に最新の治療法と知識を取り入れ、患者さんそれぞれに最適な治療を 提供できるよう努めています。皆さまが希望を持って歩み続けられるよう、全力 でサポートいたします。ともに未来を目指していきましょう。



国立がん研究センター東病院 副院長/大腸外科長 先端医療開発センター 手術機器開発分野長 伊藤 雅昭氏

PROFILE 大腸がんに対する内視鏡手術の経験は2000例を超え、日本のみならず海外 の病院での豊富な手術経験をもつ。特に従来であれば難しいとされた肛門温存手術の 経験値は日本最多を誇る。医療機器開発分野でも日本のトップランナー。人工知能を 応用した外科領域の研究開発、またスタートアップをおこし手術支援ロボット [ANSUR] を開発。昨年度から本格的にロボットを使った手術が行われ、他病院でも

国立がん研究センター東病院におけるNEXT医療機器開発センターを主導し、臨床的 な価値を追い求めた様々な医療機器開発を行ってきた。千葉大学医学部卒。

手術と聞くと何か怖いイメージがある方もいまだに多いのではないでしょうか。 ただ、この30年で手術は大きく進化しています。

昔であれば残せなかった様々な機能を残しながら、よりやさしく治療できるよう に変わってきています。そして新しい医療機器を開発することにより今まででき なかった未来の治療を創造したい、これが僕の夢です。



日本癌治療学会 認定がん医療ネットワーク シニアナビゲーター 村上 利枝品

PROFILE 35歳の時に子宮頸がん、49歳で乳がんに罹患。子宮頸がんの時は告知もな く、子どもも小さくがんの不安におびえた。乳がんの時は再手術となり、心配のあま り実母が脳梗塞で倒れ、退院と同時に親の看病に。がん闘病を乗り越えたことで、今 は、多く方々に感謝し、ピアサポート&ナビ活動を行っている。

2017年に日本癌治療学会認定シニアナビゲーター、2018年に認定心理士を取得。 ナビWG副委員長。神奈川県がん対策推進審議会委員ほか多くのがんサポート委員を

人生は長い道のりです。楽しいことも辛いこともたくさんあります。思いもよら ず「がんの告知」を受け、どうしていいのか不安でいっぱいのあなた。がんを抱 えながら子育てや親の介護で、少し疲れたあなた。私もそんな時がありました。 一人で乗り越えられなくても、そばにいる認定ナビゲーターやピアサポーター 誰かに声をかけてください。あなたが新たな一歩を踏み出すまでお手伝いをしま す。あなたが未来の自分自身に向かって歩けるまで。



国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科長 池田 公史。

PROFILE 2008年より、国立がん研究センター東病院にて肝胆膵内科へ。 肝臓がん、胆道がん、すい臓がんや神経内分泌腫瘍の患者により良い治療を提供する ために、さまざまな薬物治療の開発に取り組んでいる。また、肝胆膵領域の様々な学 会のガイドライン委員や抗がん剤の適正使用委員も兼務する。熊本大学卒業。

難治がんと言われる肝臓がん、胆道がん、すい臓がんも、治療の効果の高い薬が 開発され、日常診療に導入されています。

最近は、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤と言われる新しい治療も 導入されてきています。さらに、すい臓にできる腫瘍に対して放射線を使った薬 剤が開発されました。私たちは、患者さんに少しでもいい治療を行いたいと、 日々、努力しております。



国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科 医長 先端医療科/医薬品開発推進部 血液腫瘍治療開発推進室 室長 湯田 淳一朗 ธ

PROFILE 2017年より国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科へ。早期相の医薬品や 免疫細胞療法などの開発に尽力。2022年5月より、医薬品開発推進部において血液が ん領域の、新薬開発、ドラッグラグ解消、プレシジョンメディシン実現に向けて、研 究・開発をおこなっている。2012年 九州大学医学系学府医学専攻 博士課程。

世界の医薬品開発の潮流を見極めながら、日本の血液がんの患者さんに、最新の 診断法、治療法・治療薬を届けることを目標に、研究開発をおこなっています。 血液がんの治療の開発は日進月歩であり、既存の抗がん剤治療や移植治療に、分 子標的薬、免疫・細胞治療などが加わり、治療成績は改善しています。がんの遺 伝子異常やプロファイリングに基づいて、血液がんの患者さんへより効果が期待 できる治療選択肢をご提供したいと考えています。1人でも多く日本の血液がん の患者さんのご病気が良くなるよう尽力して参ります。



九州大学病院 先端医工学診療部 部長 九州大学大学院 消化器 総合外科 准教授 沖 英次 氏

PROFILE 医学・工学・生物学を融合し、遠隔手術や周術期治療における世界最先端の 研究開発を行う。米国、欧州などの多数の学会で、日本を代表して遠隔手術の講演を 行う。2024年2月には、米ホワイトハウスや学会関係者を前に行った。10月にはみ ずから開発した新システムを使い遠隔手術指導を行い成功に導く。 九州大学卒、米国ハーバード大学留学後、複数の病院勤務を経て現職。

私は外科医ですが、手術が唯一無二の最善のがん治療法だとは考えていません。 手術は可能な限り正確に、そして最小限の侵襲で行うことが理想です。 その上で、薬物療法や放射線治療などの全身治療を組み合わせることが、患者に とって最良の結果をもたらすと信じています。私は常に、そのための最適なアプ ローチを模索しています。すべてのがんが治癒できる未来を目指し、治療法の開 発に情熱を注いでいます。



認定NPO法人 deleteC 山口 恵子。

PROFILE 2019年2月、deleteC発足直後にdeleteCのアイデアと想いに共感し、広 報コミュニケーションの専門家として参加。2021年5月に理事に就任。

企業広報としてキャリアを積んだ後、2019年に独立。グローバルブランドやDX等の PRに関わるほか、2020年に厚生労働省の国民向け広報参与。健康危機、差別・偏見 防止、女性の雇用支援等に取り組む。中央大学卒。

「みんなの力で、がんを治せる病気に」deleteCが掲げているミッションです。 活動をはじめて5年が経ちました。ふだんの暮らしの中で、誰もが参加できるカ ジュアルソーシャルアクション (CSA) をきっかけに、がんに対して「自分にも できることがあった」と市民や企業が立場や世代を越えてがん治療研究の応援に 参加できるよう、寄付と啓発で後押しをしています。この応援の輪を広め、1億 人が関われる仕組みをつくり届けることで、がん治療研究という"希望の種"を社 会全体で応援できるよう根付かせていきたいと思います。